

Gard Insight

パリMOUによる入港拒否が増加

こちらは、英文記事「[Paris MoU bans on the rise](#)」
(2018年7月12日付)の和訳です。

2017年、パリMOUのポートステートコントロール(PSC)当局は、2015年の11隻、2016年の21隻よりも多い33隻の船舶の入港を拒否しました。

船舶の入港拒否

パリMOUの最新の年次報告書によると、過去3年間に同地域への入港を拒否された船舶の数は「憂慮すべき」水準に達しています。入港拒否(追放)は2015年以来65回適用され、2017年の33件が過去最多です。入港拒否の主な理由は「複数回の拘留(detention)」ですが、「所定の修繕ヤードに入渠しなかった」という理由も多く報告されています。2017年には、複数回の拘留後に2回目の入港拒否を受け、その結果、入港拒否期間が12カ月以上に及んだ船舶も複数ありました。

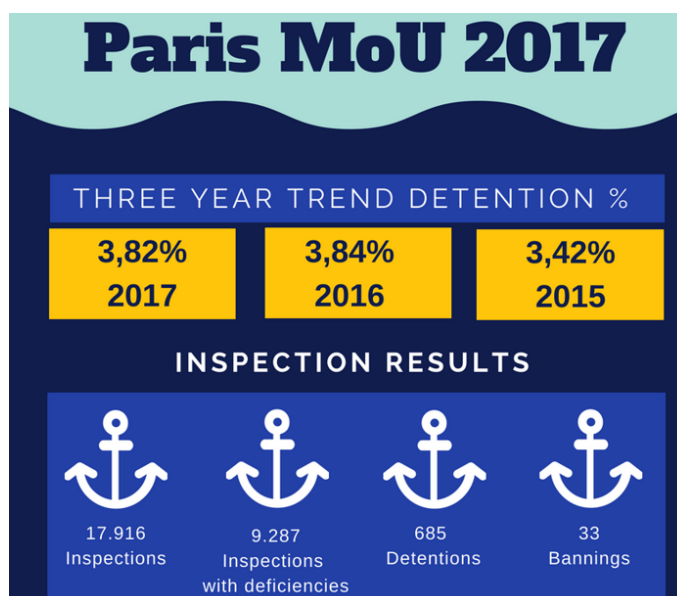
拘留率

パリMOUにより実施された検査件数合計は、2016年にやや減少した後、2017年には増加に転じて1万7916件となりました。拘留率は2015年の3.42%から2016年に3.84%と上昇しましたが、2017年には3.82%と横ばいになっています。ブラックリスト、グレーリスト、ホワイトリストの旗国別では、拘留率はそれぞれ16.8%、7.4%、2.5%となっています。

一方、東京MOUの地域では、拘留率は低下し続けていますが、検査件数は安定しています。2017年にこの地域で記録された拘留件数はわずか941件(3%)と過去最少で、20年間で初めて1000件を下回りました。しかし、東京MOUは、「拘留1隻当たりの入港拒否に相当する欠陥件数の平均が過去3年間で増加しており、一部のサブスタンダード船の状態が悪化傾向にあると解釈できる」と警告しています。

最も頻度の高い欠陥

2017年にパリMOUが記録した欠陥のうち特に多い5つは、「ISM」(4.35%)、「防火扉/耐火区画の開口部」(2.51%)、「航海用刊行物」(2.28%)、「海図」(1.96%)、「航海計画」(1.46%)となっています。最初の4つは2016年と同じですが、「油記録簿」に代わって「航海計画」が入っています。



東京 MOU の地域で記録された欠陥のうち主要な 5 分野は「火災安全措置」、「航行の安全性」、「救命設備」、「満載喫水線」、「安定性・構造・関連装備」で、「救命ボート」が入港拒否の理由となった最多の欠陥です。

追加情報

パリ MOU は、2017 年に加盟国の港に寄港した船舶の検査結果をまとめた[インフォグラフィック](#)を掲載しました。2017 年パリ MOU 年次報告書の全文は以下から閲覧できます。

[https://www.parismou.org/publications-category/annual-reports.](https://www.parismou.org/publications-category/annual-reports)

東京 MOU の 2017 年年次報告書は、以下から閲覧できます。

[http://www.tokyo-mou.org/publications/annual_report.php.](http://www.tokyo-mou.org/publications/annual_report.php)

本情報は一般的な情報提供のみを目的としています。発行時において提供する情報の正確性および品質の保証には細心の注意を払っていますが、Gard は本情報に依拠することによって生じるいかなる種類の損失または損害に対して一切の責任を負いません。

本情報は日本のメンバー、クライアントおよびその他の利害関係者に対するサービスの一環として、ガードジャパン株式会社により英文から和文に翻訳されております。翻訳の正確性については十分な注意をしておりますが、翻訳された和文は参考上のものであり、すべての点において原文である英文の完全な翻訳であることを証するものではありません。したがって、ガードジャパン株式会社は、原文との内容の不一致については、一切責任を負いません。翻訳文についてご不明な点などありましたらガードジャパン株式会社までご連絡ください。